

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195900048		
法人名	北寿産業株式会社		
事業所名	グループホームわかな		
所在地	夕張市若菜8番地25		
自己評価作成日	令和3年3月10日	評価結果市町村受理日	令和3年4月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaizokansaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_han=true&JiyosyoCd=0195900048-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事へ積極的参加、協力 ・外出行事が多数 ・料理のおいしさ ・開放感のある建物 ・手厚い健康管理・医療体制 ・ホーム内行事・レク充実
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>今年度で開設から4年目を迎えた新しい事業所です。昔ながらの商店が並ぶ市内の主要道路に面しており、静かで落ち着いた環境です。広い敷地には花壇や畑が整備され、居間や居室の窓から季節の花や野菜を眺めることができます。</p> <p>事業所の理念は職員に浸透しており、職員から利用者本位の支援を行うための提案や要望がありません。看護師資格を有する職員を配置し、日々の健康チェックを行うと共に、週1回の医師の往診を受けています。利用者の体調は随時、看護師から医師に伝えられ、体調の変化に対応しています。新型コロナウイルス感染症の流行により、外部との交流ができなくなり、また、外出も困難となりましたが、広さが80畳ある居間を使い、室内での運動会やお祭り、盆踊りなどのイベントを行い、地元の新聞社が取材に訪れるなど、利用者の気分転換に役立っています。</p>

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目	取組の成果		項目	取組の成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)	○	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすいところ数か所に理念を掲示している。また採用時研修の際に理念の説明とその配布	玄関ホール、茶の間、事務所に理念を掲示しています。管理者は、毎月の職員会議で、理念に基づいた支援について、事業所全体で共有しています。利用者の持てる力を活かした支援を心がけるなど、理念を日々の支援に反映しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会活動・商工会活動に積極的に参加している。またホーム行事にも来ていただいている。町内会役員をしている。	今年度は新型コロナウイルスの流行により、例年、地域と利用者の交流の場としていた行事が中止となったこともあり、直接の交流ができませんでした。施設長は、町内会や商工会の活動に参加し、事業所と地域の接点を維持しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内で認知症サポーター養成研修を行った。その際地域の方を誘い参加していただいた。また町内会イベントの際には敷地を駐車場として提供している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂いた意見や情報をサービス向上に活かすよう努めている。	今年度は新型コロナウイルスの流行により、会議を行う事ができませんでした。会議に替えて事業所の運営の資料を市役所や運営推進委員、居宅介護支援事業所に配布し、意見やアドバイスをもらっています。	運営推進会議の目的を踏まえ、議事録の家族への送付や、会議ができない場合の会議参加者への情報の提供と、意見の収集方法などの工夫が望まれます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議によって情報交換をしている。また市役所への文書送付の際は挨拶、情報交換を兼ねて市役所担当者へ手渡ししている	市は、感染症対策の情報提供や困難事例への対応など、情報提供と助言を行っています。また地域包括支援センターを通じて、事業所の困難事例を地域ケア会議で検討し、地域の介護事業所の経験やアドバイスを支援に活かしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度身体拘束廃止委員会を開催し身体拘束についての研修会を開催している。また外部研修にも積極的に参加している。	今年度4回の身体拘束廃止委員会を実施し、毎月の職員会議でも、身体拘束や虐待について、基本的な考え方を伝え身体拘束のグレーゾーンへの対応について、職員間で共有し、身体拘束廃止への理解を深めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の虐待防止研修会に参加し、虐待についての知識を身につけ、その防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	例年夕張市が主催する成年後見制度の研修に参加しているのだが昨春秋は研修が直前に中止となった。管理者は成年後見制度等の情報収集に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って説明している。特に見取りについての対応方針などは詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等には、要望や意見などあれば言ってもらえるよう声掛けをしている。また運営推進会議などで入居者の方へ意見を言っていたり配慮している。また意見・要望があれば運営に反映させるよう努めている。	毎月、利用者の生活の様子が分かる事業所だよりを家族に送付し、事業所の運営状況を伝え、家族が運営についての意見を述べやすい環境づくりに努めています。利用者からの意見はケース記録に記録し、申送り時に共有しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は職員が必要に応じて個別に意見を言える場を設けている。 また朝の打ち合わせや月に一度の職員会議でも職員全員が意見を話せる場を設けている。	毎年、施設長による職員面談を行い、職員の意見や提案を聞いています。面談では、不満や改善提案、雇用形態や現場の支援にかかる意見や要望を聞いています。また、毎月の職員会議では、職員から様々な意見が出ています。排泄介助の際に羞恥心への配慮として提案された、プライバシー保護のカーテンをトイレ個室内に設置しました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も毎日勤務しており職員の努力や勤務実績、勤務状況を把握している。 職場環境のとしては、資格取得に関して積極的に支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度の職員会議内で短時間ではあるが毎度研修を設けてスキルアップを目指している。また事業所外で行われる研修にはなるべく多くの職員が受講できるように計画している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	市内の同業者の研修会には交流も兼ね毎度出席している。また市外のグループホーム主催の研修会も積極的に行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族やご本人の事前面談を通して、ご本人の要望を聞き、今までの生活を極力変えなく新しい生活に慣れていただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し要望に沿えるよう努めている。その際ご要望に応えられないことは丁寧に説明し理解を頂けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在まで他のサービスを必要としている方の相談はないが今後そのようなケースがあれば他の事業所のサービスにつなげるなどの対応をしていきたい。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人にできることはしてもらえよう場面の設定をしてはいるが、どうしても支援する側とされる側という関係ではある「共に過ごし、学び、支えよう」といった場面をより多くする努力を要する。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族来所の際、日々の暮らしの出来事や気づきの情報を伝えている。また月に1度生活の様子や健康状態を文書で報告している。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前にあった人間関係を尊重し、友人や知人に会いに行くなど積極的な支援を行っている。	コロナ禍においても、感染予防対策の上、近所への買い物や馴染みの理美容室の利用を支援しています。アルバムや家族の送ってくれた写真を話題にし、利用者の馴染みの関係や、家族との関係継続を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について情報連携を毎日している。人間関係が円滑に進めるよう日々注意深く見守り時には調整をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了された家族の方にも行事に招待するなど継続的な関係ができるよう心掛けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の希望や意向の把握に努めており、スタッフ間で共有している。意思疎通の困難な方は家族から情報を得ている。	意向の把握が難しい利用者は、表情の変化や声掛け時の反応を捉え、利用者本人の意向を推察し、本人本位の支援へ繋げています。また、部屋や風呂などでの、職員と1対1の状況下での意向の受け止めを行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には、ご家族や居宅支援事業所の担当者から生活歴や日常の生活スタイルを聞いています。また本人からも聞き取るようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日常支援の中で、入居者一人一人の生活リズムを把握し、職員で情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	頻繁にお会いできる家族には要望を聞き取り介護計画に反映している。職員全体のケア会議を介護計画に反映するようにしている。	職員が利用者の生活の様子を踏まえてモニタリングし、その情報を基に、会議の場でアセスメントを検討した上、支援計画を作成しています。計画は3か月に一度見直しています。また、状態に変化のあった場合は再度、家族の同意を得ています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一時間ごとのご本人の様子やケアの実践、エピソード等を個別記録に記入している。それらの記録を参考に介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状態や希望に応じて、必要な支援は柔軟に対応している。またご家族が宿泊できる体制や備品等を用意している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が充実して地域での生活を続けられるよう地域のイベントなどに積極的に参加し安全で豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。特に希望がない利用者の方には協力医療機関の訪問診療を利用させていただいてかかりつけ医になって頂いている。また市外への通院も同行している。	本人や家族が希望する病院を受診しています。ペースメーカーの点検に、市外の病院を受診する際は、職員が同行します。利用者は、地元の開業医による週1回の往診や職員の看護師による健康チェックを受けています。看護師は、随時医師と情報交換を行い、利用者の健康管理に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、体調や些細な表情の変化など見逃さないようにし、早期発見に取り組んでいる。また変化等に気づいたことがあればかかりつけ医に報告し適切な医療につなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援状況に関する情報を医療機関に提供し、スムーズな看護(医療)へとつなげている。必要に応じて買い物等を行い病院まで届けている。また家族とも回復状況等情報交換をしながら、速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	重度化している入居者は、家族の意向を十分に聞き取り、緊急時の対応等、職員全員で共有しながら支援をしている。	事業所は、利用者・家族の希望を尊重し、看取りを行っています。重度化の方針を定め、入居時に説明を行い、同意を得ています。利用者の体調変化に合わせ、医師、家族、施設長で、終末期の対応について、方針の共有し、デスカンファレンスも行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力で、応急手当や蘇生術の研修を実施したが、現在受講していない職員も数名いる。再度その研修の必要性を感じる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回避難訓練を行っている。また非常食、非常時飲料水を用意している。	昼、夜の想定で年2回、火災想定で避難訓練を行いました。また、これとは別に、全職員が参加する避難訓練研修を行い、火災時の対応や連絡手順の確認を行っています。食料や水などの備蓄の他、マスクや手袋など感染症対応の備蓄も行っています。	火災以外の災害への対応など、具体的な事例に基づいて、職員の行動や連絡方法などの再確認と、職員全員での共有が望まれます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり人格を尊重し敬意を払った声掛けをしているが多々親し気な声掛けになることがある。研修や会議などを通して学んでいきたい。	施設長は、職員に対し、日常的に利用者の人格や尊厳を守るよう具体的な支援を伝えていきます。職員は、利用者のプライバシーや羞恥心などにも配慮し、入室時のノックや排泄支援時に過度の露出を行わないなどの対応をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話を通して、本人の思いや希望を表すことができるよう支援している。また押し付けではなく自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	基本的な1日の流れはあるが時間を区切った過ごし方はしていない。その時の本人の気持ちを尊重して、可能な限り個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の生活習慣に合わせ支援をし、日ごろからも清潔感を損なわないようおしゃれを楽しんでもらえるよう取り組んでいる。また近所の理美容院とも連携を取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	春は山菜、秋はきのこなど旬の食材を使った献立や季節行事にちなんだ献立を作って食事を楽しんでいただける工夫をしている。	献立は利用者の好みや要望を踏まえて、職員が交代で作成しています。料理は手作りが中心で、利用者にも手伝ってもらっています。日々の食卓でも、季節や行事に合わせて、食器を選んだり、フンプレーとランチや弁当形式など提供方法を変え、食の楽しさを演出しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの水分摂取量や食事量の記録をしている。また利用者の咀嚼力に合わせた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後利用者一人ひとりに声掛けをし、口腔ケアをしてもらい、自力では不十分な方には職員が介助し習慣になるよう支援している。また、週1度訪問歯科診療を利用し専門的な口腔ケアも実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意がない利用者にも時間を見計らって誘導することにより、トイレで排泄できるよう支援している。	利用者ごとに排泄チェック表を用いて、時間を見ての声掛けやトイレへの誘導を行っています。おむつなど、衛生用品を使用する際には、利用者の意見や意向を確認しています。気持ちよく排泄できるように、トイレの清掃は重点的に行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し排便間隔を職員が把握し毎日テレビ体操をし腸の運動をしている。便秘気味の利用者には牛乳やヨーグルトを提供している。またそれでも排便がない場合は看護師が医師と相談し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に沿った支援をしている	基本的な入浴日は決まっています。見守りだけ必要な方は好きな時間に入浴していただいています。その際利用者に配慮しながら声掛け見守りをしています。	最低週2回の入浴ができるようにしています。また、土曜日や日曜日は、要望があれば入浴支援しています。その日の入浴の順番をくじで決めるなど、利用者の入浴への関心が高まるような工夫をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息したいときは自室に戻ったり、リビングのソファで横になって頂いたりと自由にしていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し薬の提供職員を記録する仕組みをとり誤薬、飲み忘れがないようにしているが、薬の目的や副作用の周知などは皆が知っているわけではない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内や自室の掃除は日常的に職員と一緒に 行っている。一人ひとりの状態に合わせ洗濯物 たたみ、食事の準備など生活に張り合いを持 てるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけら れるよう支援に努めている。また、普段は行けないよう な場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるように支援している	職員は可能な限り利用者の行きたい場所へ外 出できるよう支援している。花見、お祭り、コン サート等四季の行事や各種イベントを企画し外 出の機会を設けている。	今年度は新型コロナウイルスの流行により、例 年行っていた、外出レクを中止しましたが、感 染予防対策を行った上、車上からのお花見や 紅葉見物など、ドライブに出掛けています。ま た、敷地内で、利用者職員だけでパーベ キューなども行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解してお り、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり 使えるように支援している	少額ではあるが利用者ご本人に金銭管理をし てもらい社会性の維持に取り組んでいる方もい る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり 取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話または葉書等 をかけるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ 等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激 (音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活 感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工 夫をしている	共有の空間は季節感を取り入れるため季節ご との飾りつけをしたり、お花を飾ったりして いる。また特に清潔を保つよう努力している。	季節を感じられるように、玄関や居間に季節 の飾りつけをしています。また、ひまわりを植え、 窓越しに季節を感じるための工夫をしていま す。居間は80畳あり、広い空間の中で、利用 者は思い思いの場所でゆっくりと過ごしてい ます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同 士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内各所にソファを置き気の合った利用 者同士おしゃべりをしたり思い思い過ごしてい ただける工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しな がら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が 居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンスなど使い慣れた物を使っていた 居心地の良さを感じてもらえるようにしてい る。また写真やお花を飾るなど居心地良く過 ごしていただけるよう支援している	利用者ごとに細かく室温を調整しています。家 族の写真や室内に飾り、また、以前使用してい た家具等を持ち込むことで、自室であることが わかるようにしています。仏壇を持ち込むこと もでき、自宅での生活スタイルが継続できるよ うにしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を 活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよ うに工夫している	施設内はバリアフリーで手すりが設置してい る。車椅子の利用者は可能な限り自力で移動 し自立した生活ができるよう職員が見守りなが らで支援している。		